平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	きらり鎌ケ谷市民会館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	田中　芳雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市民会館の使用状況を確認しながら、よりよい管理運営体制を整え、定着を図る。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ケ谷と綿密な意見交換の場をもつために、月1回情報共有の場をつくり、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応の検討をする。
②①に基づく取組み結果	各施設の使用状況を確認しながら、話し合いを行い、連携を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センター	意図（対象をどうするのか）	各施設が円滑に運営されている。
②事務事業の概要	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	きらりホールの来場者が増加することで、各施設の存在のPRに繋がり、来館者が増加する。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	4月に開館し、1年を経過したが、事故もなく、円滑に施設を管理運営することができた。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	きらりホール			74,932	人	業務取得
	ii	中央公民館			66,674	人	業務取得
	iii	多文化共生推進センター			3,402	人	業務取得
	Ⅳ	男女共同参画推進センター・市民活動推進センター			3,306	人	業務取得

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		7,484	109,324	金額（千円）	内容	114,577
	国支出金（千円）			80,987	市民会館賃借料	
	県支出金（千円）			8,834	光熱水費	
	市債その他（千円）			12,733	清掃委託	
	一般財源（千円）	7,484	109,324			114,577

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターやショッピングプラザ鎌ケ谷と綿密な意見交換が必要である。また、様々な来館パターンに対し、スムーズな対応が必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	1低い		
③上記評価の理由	市民会館内の併設施設である、きらりホール、中央公民館、多文化共生推進センター、男女共同参画推進センター、市民活動推進センターの管理運営をするにあたって、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績				当初		H25からの繰越	
				H25⇒26繰越			
③達成状況				補正		現年分	
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	きらりホールの管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	3	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	市民会館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	田中　芳雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	「貸館業務」として、施設の利用にあたっての手続き、諸注意、また実際に使ってみて必要な備品等を精査し、揃える。また「自主事業」の実施についても、より市民の意見を取り入れることのできるよう、検討の仕組みを整える必要がある。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	貸館業務については、今までのデータの整理を行う。 自主事業については、観覧者数を増やすため、きらりホール運営委員のアドバイスをもとに、来年度以降の計画や告知方法などを検討する。
②①に基づく取組み結果	貸館業務では、注意指導により、安全に運営することができた。また、備品の整備を行った。きらりホール運営委員会を設置し、自主事業検討の仕組みを作ることができた。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市民、市域	意図（対象をどうするのか）	市民の芸術文化活動のサポートをする。
②事務事業の概要	きらりホールの管理運営を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	きらりホールは、有料事業も行える本格的なホールであることから、発表の場としての市民ニーズは高い。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	オープニングセレモニーや貸館業務、自主事業では多数の市民が来場した。また、きらりホール運営委員会を設置し、自主事業検討の仕組みを作ることができた。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	ホール来場者数			74,932	人	業務取得
	ii						
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	32,142	58,469	金額（千円）	内容	54,926
国支出金（千円）			28,366	舞台保守管理委託	
県支出金（千円）			11,021	公演謝礼	
市債その他（千円）			1,647	舞台用消耗品	
一般財源（千円）	32,142	58,469			54,926

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	貸館業務については、効率的な運営を行うためにデータの整理が必要である。自主事業については、公演内容の検討の仕組みを整え、観覧者数を増やすことが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	まちづくりという観点から、きらりホールの管理運営を考えると、市関与の妥当性、公平性、有効性は高いといえる。また、課題に対しての対応が必要なため、拡充とする。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績				当初			H25からの繰越
				H25⇒26繰越			
③達成状況				補正			現年分
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	文化財保護に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	犬塚俊雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	開発事業における文化財所在の事前確認を周知徹底する	③平成27年度に取組む改革・改善内容	埋蔵文化財については遺漏の無いよう保護をしていくとともに、新たな指定物件や要保護物件の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	窓口対応の徹底を図るとともに、情報について、共有を図った。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内遺跡、指定文化財等	意図（対象をどうするのか）	現状保存を目指すが、不可能な場合は発掘調査等による記録保存を行う
②事務事業の概要	文化財の指定・指定文化財の管理・埋蔵文化財発掘調査に係わる業務を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	首都圏近郊に位置する本市の地理的環境により、各種開発の波が市内にも及び、埋蔵文化財（遺跡）の保存策を講じる必要がある。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	市指定文化財29点中、市所有以外の26件の管理・活動に報償を支払った。 埋蔵文化財確認のあった45件の事業に対し、埋蔵文化財包蔵地に該当する7件及び下総小金中野牧跡（捕込）整備のための確認調査を行った。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	発掘調査件数	6	9	8	件	業務取得
	ii	発掘調査面積	5,027	4,511	1,861	㎡	業務取得
	iii	埋蔵文化財窓口確認数	741	745	730	件	業務取得

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		4963	5,030	金額（千円）	内容	5123
	国支出金（千円）	1,800	1,500	300	市指定文化財管理費報償	1,500
	県支出金（千円）	450	300	3,027	市内遺跡発掘調査費用	371
	市債その他（千円）	0				
	一般財源（千円）	2,713	3,230			3,252

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	文化財を未来に伝えていくための保護業務を引き続き行う。埋蔵文化財保護は開発に伴うもので不確実である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	文化財保護事業は行政の責務であり、調査件数が増加すると見込まれる中、今後も継続して実施する必要がある。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H25からの繰越
③達成状況				H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	文化振興に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	犬塚俊雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	芸術・文化活動への参加機会の周知を図る	③平成27年度に取組む改革・改善内容	芸術文化活動への参加機会の更なる周知を図る
②①に基づく取組み結果	市民参加の機会の創出及び参加者の募集		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内に在住・在勤・在学する人	意図（対象をどうするのか）	芸術文化に関心を持ち、豊かな情操を身につけ自らも活動する。
②事務事業の概要	芸術文化事業（市民文化祭、美術展覧会、芸術鑑賞教室等）の実施。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	行政が提供する事業を鑑賞するという受身的な意識から「行政とともに事業を作り、運営する」という協働型の事業展開を望む市民（団体）の増加が予想される。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：芸術鑑賞教室（能楽・歌舞伎・文楽）の実施。市民文化祭の実施及び市展の共催

②成果を表す指標

	指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
i	鑑賞教室応募者数	411	433	425	人	業務取得
ii	市主催芸術文化事業参加・発表者数	1,664	1,910	1,866	人	業務取得
iii	市主催芸術文化事業来場者数	8,109	6,975	10,809	人	業務取得

③事務事業のコスト

	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳 金額（千円）	内容	平成27年度予算
事業費（千円）	1,659	3,731			1,701
国支出金（千円）			1,062	非常勤職員賃金	
県支出金（千円）			22	芸術鑑賞教室	
市債その他（千円）		736	2,022	芸術鑑賞事業	
一般財源（千円）	1,659	2,995			1,701

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	芸術鑑賞に関する関心が高まり、事業参加者が増加しているため、応募方法等の検討をして、多くの市民が参加できる機会を作っていくことが課題である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	芸術文化の発表機会、鑑賞機会の提供は地域の文化を大切にする社会の構築に不可欠である。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績			0	当初		0	H25からの繰越
③達成状況				H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	国史跡下総小金中野牧跡保存整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	1	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	犬塚俊雄			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	周知普及事業等の実施により市民周知度を上げる。史跡の整備事業を進める。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	周知普及事業等の実施により、更に市民周知度を上げるとともに、整備事業を進めていく。
②①に基づく取組み結果	周知イベントを行い、市内外に史跡の重要性を伝えた。史跡整備実施計画を策定した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	国史跡下総小金中野牧跡捕込・野馬土手	意図（対象をどうするのか）	市民に親しまれる史跡をめざし、周知し、保存整備を図る。
②事務事業の概要	国史跡下総小金中野牧跡の維持管理、周知普及および史跡整備事業を実施する。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	史跡を保護するために国史跡として公有化を進め、指定後は周知普及に努めた結果、市の地域資源として市民に浸透してきたことにより、整備を望む声や国史跡以外の野馬土手の保存を望む声が予想される。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	清掃委託業務及び職員による作業によって、捕込の維持管理を行った。また、周知普及イベントを10件行い、史跡の重要性について伝えるとともに、広く史跡の存在についてPRした。保存整備の基となる整備実施計画を策定した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	国史跡取得面積	6,000	6,000	6,000	㎡	業務取得
	ii	周知普及事業参加者	6,569	8,610	7,838	人	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	1,881	4,353	金額（千円）	内容	6,780
国支出金（千円）			1,205	清掃管理委託	500
県支出金（千円）			164	計画策定委員会	219
市債その他（千円）			2,484	整備計画策定委託	4,061
一般財源（千円）	1,881	4,353	500	実行委員会負担金	2,000

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	史跡地を公有化し、保護活用・整備し、更なる周知の裾野を広げることを目指して、事業展開していくことが必要である。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	史跡地を公有化し、保護活用することは芸術・文化の振興を図るうえで極めて重要で、整備をして、周知する必要があるため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	周知普及・整備実施計画作成	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	清掃管理業務、普及活用イベントの実施、整備実施計画	4,684	4,684	当初	4,684	4,353	H25からの繰越
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正			現年分　4,353
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額（単位；千円）					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	郷土資料館の管理運営に要する経費	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課 郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野　晃			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	簡易修繕と展示替え、並びに教育普及の拡充等で工夫しながら事業を進めていく。	③平成27年度に取組む改革・改善内容	市民ボランティアを活用しながらの展示事業や教育普及事業を引き続き行う。施設が古いので、簡易修繕を利用した環境整備をしていく。
②①に基づく取組み結果	簡易修繕と展示替え、並びに教育普及の拡充等で事業の進捗があった。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図（対象をどうするのか）	先人達の足取りとその生活を知り、生涯学習や学校教育で活用してもらう。
②事務事業の概要	鎌ケ谷市の歴史、自然などに関する資料を収集、保管して調査研究をするとともに展示事業や教育普及事業を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	生涯学習においては、市民の知的欲求を満たし文化財保護や郷土意識の心を育むこと。学校教育においては、教育現場での効果的な学習ができるように支援すること。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果：（1）郷土資料の収集　（2）常設展示　（3）企画展示　（4）講座・教室　（5）講師派遣

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	来館者数	5,168	6,286	5,524	人	業務取得
	ii	展示事業実施回数	2	3	3	回	業務取得
	iii	教育普及事業実施回数	30	39	69	回	業務所得

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	6,667	9,180	金額（千円）	内容	11,426
国支出金（千円）			48	市史編さん審議会委員報酬	
県支出金（千円）			9,132	施設管理運営費	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	6,667	9180			11,426

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）：ソフト(展示・教育普及)には市民ボランティアを活用し、ハード（施設）では簡易修繕制度を利用し整備する。

②評価						
ⅰ市関与の妥当性	3高い	ⅲ公平性	3高い	ⅴ総合評価	6精査・検証
ⅱ有効性	3高い	ⅳ効率性	2普通		

③上記評価の理由：収集,調査、研究をし、展示事業や教育普及事業を行った。

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績			0	当初	0	H25からの繰越	
③達成状況				H25⇒26繰越			
④未完了・非着手の理由				補正		現年分	
				流用・充当			
		平成27年度への繰越額					

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	鎌ケ谷市史編さん事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課　郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野　晃			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	市史刊行計画に沿った事業を今後も進めていく	③平成27年度に取組む改革・改善内容	平成27年度は市史研究第29号を刊行。
②①に基づく取組み結果	市史刊行計画に沿った26年度事業については、停滞なく完了した。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図（対象をどうするのか）	先人の足跡を辿りその生活等を知ることで、ふるさと意識を持って生活すること。
②事務事業の概要	「鎌ケ谷市史刊行計画」に基づき、郷土の歴史、民俗等に係る資料を収集・調査し、鎌ケ谷市史の執筆・刊行を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	市内に残されている自然、民俗などの資料や文化財を収集・保存し、展示することを目的とした郷土資料館が昭和62年に開館。生涯学習・学校教育において歴史の関心が高まる中、市史が完成していないことや資料の多くが展示できていない状況。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	（1）郷土資料の整理調査、史料調査（61件）、史料整理・目録作成（2,406点）を行った。 （2）新たに発見、確認された重要な歴史事項についてまとめた『鎌ケ谷市史研究』第28号を刊行。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	生涯学習・学校教育の場での利用者	6,815	8,414	7,332	人	業務取得
	ii	刊行物点数	2	2	1	点	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト	平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）	12,178	8,926	金額（千円）	内容	8,790
国支出金（千円）			312	印刷製本費	
県支出金（千円）			8,614	市史編さん委託	
市債その他（千円）					
一般財源（千円）	12,178	8,926			8,790

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	平成26年度は市史研究第28号を刊行する。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	2普通	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	市史刊行計画に沿った事業を進めることができた。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	鎌ケ谷市史研究『第28号』の刊行	計画事業費	予算額			決算額	
②計画に対する事業実績	市史研究650冊	9,040	9,038	当初	9,040	8,926	H25からの繰越　0
③達成状況	完了			H25⇒26繰越			現年分　8,926
④未完了・非着手の理由				補正			
				流用・充当	−2		
		平成27年度への繰越額			0		

平成27年度　鎌ケ谷市事務事業評価表（事後）（標準評価表）

事務事業名	郷土資料館改修事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	10	4	6	○
政策	12生きがいのある暮らしができる生涯学習社会をつくります	担当課室	文化・スポーツ課　郷土資料館			
施策	123芸術・文化の振興	担当課室長	立野　晃			

Ⅰ　改革・改善内容（＝事務事業をより良く実施するための方策）

①前回の評価で掲げた内容	外壁改修・屋上防水改修工事事業	③平成27年度に取組む改革・改善内容	
②①に基づく取組み結果	平成26年度中に完了。		

Ⅱ　事務事業の目的・概要

①目的	対象	全ての市民	意図（対象をどうするのか）	生涯学習や学校教育の場として、安全で快適な施設にする。
②事務事業の概要	25年度に引き続き「長寿命化に関する基本指針」で改修工事を行う。			
③環境分析（事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など）	文化財保護や郷土意識を育み市民の文化的要求を満たす施設であり、教育現場での効果的な学習を支援できる施設とするため、平成24年9月の公共施設の長寿命化に関する基本指針に基づき、改修工事を続けている。			

Ⅲ　事務事業の成果やコストの状況

①平成26年度の事業の成果	郷土資料館外壁改修･屋上防水改修工事に係る工事を完了した。

②成果を表す指標		指標名称	平成24年度	平成25年度	平成26年度	単位	算定根拠
	i	工事設計の完成		1	0	件	業務取得
	ii	工事の完成		0	1	件	業務取得
	iii						

③事務事業のコスト		平成25年度決算	平成26年度決算	平成26年度決算（事業費）の主な内訳		平成27年度予算
事業費（千円）		12,178	23,343	金額（千円）	内容	0
	国支出金（千円）			23,343	郷土資料館外壁･屋上防水改修工事	
	県支出金（千円）					
	市債その他（千円）					
	一般財源（千円）	12,178	23,343			0

Ⅳ　評価・検討

①課題（目的に対する現状など）	26年度は外壁・屋上防水工事を行う。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	1終了
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通		
③上記評価の理由	外壁・屋上防水工事が計画通り完了となったため。					

Ⅴ　多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

		平成26年度事業費の状況（単位；千円）					
①平成26年度の計画	外壁改修・改修屋上防水工事	計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	完了	26,649	25,133	当初	23,343	H25からの繰越	23,343
				H25⇒26繰越 25,133			
③達成状況	完了			補正		現年分	0
④未完了・非着手の理由				流用・充当			
		平成27年度への繰越額			0		